

■田宮流心剣放光会講習会■



令和3年6月27日。時間帯自由参加型で、春期の田宮流講習会(稽古会)が松田体育館で行われました。参加者は当会から、6名が参加しました。午前の部は総勢12名でしたが、午後から増えて最大で20数名殆どが本部と神明会で制定居合の講習会と日取りが重なった事もあり、支部の先生方も分散した様でした。今回は、直心陰流の城所先生(田宮流本部正麟館所属)による、試し切りのご指導と、妻木宗家による居合の対裁きを使用した柔術的運用技の同時2カ所で、新規入門の方々は、宗家直伝で、素振り、受け流し、貼り留めなどの基本技のご指導を受けられました。試し切りでは、城所先生の模範的な試斬を拝見後、下記の注意点を守れば斬れますとアドバイスを受けました。

■従来の考え方では、(剣道)『物打ち』刃先から20cm位が一番遠心力が掛り斬れる説でしたが、本来刀の重心点は、もう少し10cm～20cm手前であるとの事。従ってもう半歩十分に踏み込む事。

■畳表や竹などの繊維に対して45度の角度で斬る事。

確かに半歩踏み込んだら、あまり力を入れなくても、遠心力が効いて、抵抗無く"パサ"っと斬れました。目から鱗です。皆様初めて青竹の試斬を経験させて頂きましたが、畳表より固いと言う感覚の違いは有りましたが、重心点で斬れば同じ感覚でした。ただ私の場合、物打ちで斬っているのも動画で確認してみたら結構有りまして、速さが有れば物打ちでも、斬れてしまっているの、細い物なら物打ちでも速度が有れば斬れるとも考えられて悩みます。

もう一つの繊維に対し45度で斬るは、理論的にとても解り安いのですが、普段の稽古で斬る太刀筋、体軸を正面にする訓練を積んでいるので、これが中々難易度が高く、どうしても25度～30度に斬ってしまいます。それだけ繊維の中を長い距離斬り抜けて行く抵抗が掛るので、斬る距離が短い45度は別に訓練し無ければ身に付かないと思います。今回座斬りに挑戦しましたが、畳表の下の方を斬るとき普段の稽古の30度の太刀筋で斬ると、延長線上の床に刀が接触して刀を痛めてしまいました。これだけ貴重な経験とご指導をして頂いた城所先生と宗家に感謝したいと思います。また臭いのキツイ畳表のゴミ捨てや、竹の処理、お弁当の購入とゴミ捨てなども奥様や先生方にして頂き恐縮しています。田宮流本部講習会の参加もアットホームで勉強になりますので、参加すると楽しいですよ。

■新規会員様■

今年4人目の入門者の吉村さんが入られました！(集合写真前列左)上達は稽古回数に比例すると思いますので、ぜひ頑張ってください！皆様もどうぞ宜しくお願い致します。

ザックさんも基地の規制が緩和され稽古に息子さんと一緒に来てくれました。

会員さんが増えて再び、活気ある道場になればいいですね！

